

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:6.

当院小児外科における逆行性洗腸の現状と課題

日野岡 蘭子, 宮本 和俊, 平澤 雅敏, 石井 大介

当院小児外科における逆行性洗腸の現状と課題

旭川医科大学病院 看護部

○日野岡蘭子 宮本和俊¹⁾ 平澤雅敏¹⁾ 石井大介¹⁾

旭川医科大学外科学講座小児外科¹⁾

当院小児外科で実施している逆行性洗腸法に関して2007年から現在まで指導した8名の経過と課題について報告する。指導年齢は小学4年から中学2年まで。現在は成長に従い20歳以上が7名となった。1名は順行性洗腸へ切り替えた。直近で指導した1例を除き、6名が時間がかかるという理由で逆行性洗腸を行っていない。現在は薬剤調整を中心に浣腸、摘便で管理し、下痢時の失禁持続が3例であった。指導当初は継続を視野に入れるが、次第に継続困難となった。失禁でも洗腸に戻らない理由は、時間がかかるデメリットが漏れの不快を凌駕していることが伺えた。成長後も排便コントロールが必要な場合は長期的視点で関わる必要があるが、当院では説明と同意により小児期での順行性洗腸を第一選択としたことはない。小児期は侵襲の少ない逆行性洗腸で排便コントロールを図り、思春期以降で本人の意向や将来も踏まえて改めて管理方法を検討するのが現時点での方策である。